

生徒発表

生徒会を中心とした国際貢献ボランティア

第10回拓殖大学後藤新平・新渡戸稲造記念国際協力・国際理解賞コンクール
アクションプログラム部門最優秀作品
福島県立平工業高等学校生徒会

1. 取組の概要

本校生徒会は、校内行事の企画・運営の他、朝の挨拶運動、校内外の清掃活動、各種研修会の企画・参加、生徒会報の発行、そして、ボランティア活動としてアルミ缶回収による車椅子寄贈（平成20年12月末現在で22台を特別養護老人ホームへ寄贈）等、様々な活動を行っている。さらに、国際貢献事業として実施してきた活動が以下の5点である。

(1) 国際貢献事業Ⅰ「モンゴルのマンホールチルドレンへジャージ・運動靴を送る」

この活動は、平成15年度から開始された。ある県立高校家庭クラブが神戸のNGO団体を通じて、運動靴等をモンゴルへ支援物資として送る活動をしているという話を聞いたことがきっかけだった。当時、本校では、卒業生がジャージや作業着、運動靴を大量に捨てていく現状にあり、これらの物資を必要としている人々のために役立てたいと考えた当時の生徒会役員により、国際貢献事業Ⅰがスタートした。発送先は、当時テレビ等で話題になっていたモンゴルのマンホールチルドレン。彼らは貧困のため親に見放され、 -40°C の寒さをしのぐためにスチーム管の通るマンホール下で暮らす子供たちである。生徒会役員が卒業していく3年生にジャージ、作業着、運動靴の寄付を呼びかけ、回収、手洗い、乾燥、箱詰めをし、3カ年に渡ってモンゴルへ支援物資として発送してきた。（写真1）

第1回平成15年9月17日総数640点

第2回平成16年9月22日総数567点

第3回平成17年9月27日総数600点

(2) 国際貢献事業Ⅱ「ベトナムで日本語を学ぶ学生に中古辞書を送る」

この活動も、平成15年度から開始された。ベトナムへ辞書を送る活動をしている地元のロータリークラブから、辞書集めが非常に困難であるという話を聞いたことがきっかけだった。当時、本校では卒業生が辞書も大量に捨てていく現状にあり、これらの物資を必要としている人々のために役立てたいと考えた当時の生徒会役員により、国際貢献事業Ⅱがスタートした。物資輸送先のベトナムは急速な経済発展を遂げ、アジアの経済大国・日本に対する関心が高く、日本語を学ぶ学生が年々増加している。生徒会役員が卒業していく3年生に趣旨を説明、英和・和英・国語辞典の提供を依頼し、回収、種



写真1 運動靴を手洗いで1足1足洗浄する

類ごとに分別、箱詰めを行う。さらに、合同研修で交流のある県内の高校にも協力を呼びかけ、活動規模は拡大した。この活動は、ベトナム日本大使館の多大な協力と輸送ルートの確保、さらに県ロータリークラブによる輸送費全額負担があつてこそ実現した活動であつた。しかし、平成18年度以降はベトナムまでの船便が確保できないことと、ロータリークラブの方針転換等により、中断した状態である。

第1回平成16年2月20日計8校 総数878冊

第2回平成17年2月23日計16校総数1,939冊

第3回平成18年2月23日計14校1,780冊

+地元ロータリークラブからの寄付

総数2,086冊

(3) 国際貢献事業Ⅲ「使用済みプリペイドカード・インクカートリッジ回収による開発途上国支援」

使用済みプリペイドカード・インクカートリッジで開発途上国への支援が可能であるという情報を調べた当時の生徒会役員により、平成17年度から国際貢献事業Ⅲとして開始された。これらの物資は、「JOICFP（ジョイセフ）」というNGO団体を通してリサイクル業者やコレクターに売却・換金され、アジア・アフリカの開発途上国の医療品・教育費・地雷撤去費等に役立てられる。生徒会報で先生方や全校生徒に協力を呼びかけた他、近隣の写真店やコンビニエンスストアにも協力を依頼し、平成20年12月末



写真2 学校周辺の写真店やコンビニエンスストア等にも協力を依頼し、大量の使用済みプリペイドカードとインクカートリッジが回収可能に

現在で3回の発送を終え、第4回目に向けて活動中である。(写真2)

第1回平成18年7月13日

プリペイドカード5,547枚・インクカートリッジ約17kg

第2回平成20年5月28日

プリペイドカード2,633枚・インクカートリッジ約54kg

第3回平成20年9月30日

プリペイドカード5,000枚・インクカートリッジ約13kg (写真3)

(4) 国際貢献事業Ⅳ「アフリカ・マリ共和国へジャージ・運動靴を送る」

この活動は、国際貢献事業Ⅰに代わって平成18年度から開始された。モンゴルからマリ共和国への輸送先変更は、物資輸送に協力してくれていた神戸のNGO団体が活動を休止してしまつたらしく、連絡がとれなくなつてしまつたことがきっかけであつた。各方面から情報を収集したところ、モンゴルではある程度物資が充足し、世界的には恵まれた状況になってきたという。しかし、世界にはまだまだ私たちの支援を必要としている国や地域があるはずと考え、モンゴルよりもはるかに貧困にあえいでいるアフリカ・マリ共和国の存在に注目した。マリ共和国は、5歳未満の乳幼児死亡率が1,000人中218人（2005年で世界第7位）、1足の靴を50人の子供たちが代わる代わる履き、1枚のおむつや衣服すら満足に手に入らない貧しい国である。





写真3 回収したプリペイドカード・インクカートリッジを集計・計量してJOICFP(ジョイセフ)へ発送する。

マリ共和国の現状を知り、私たちが支援をすべき国はここだと確信した。そして、マリ共和国に長年支援物資を送り続けている、「マザーランド・アカデミー・インターナショナル」というNGO団体に協力を依頼し、新たに国際貢献事業Ⅳとして活動がスタートした。平成20年12月末現在で3回の発送を終え、来年度に向けて準備中である。

第1回平成18年12月21日 総数480点

第2回平成19年12月20日 総数901点

第3回平成20年12月19日 総数1,043点

(5) 国際貢献事業Ⅴ「ペットボトルキャップ回収による開発途上国支援」

この活動は、平成20年度の新規事業として開始された。地元のロータリークラブがペットボトルキャップの回収活動を行っている話を聞き、私たちも校内で回収活動を開始した。キャップ800個を回収・換金することで、ポリオワクチン1本分に相当するという。

第1回として平成20年5月15日に総数2,008個を寄贈。現在も、全校生徒や先生方の協力により回収を続け、第2回寄贈に向けて活動中である。

2. 取組の成果と課題

(1) 成果

① 私たち生徒が自ら考え、行動するという積極性が身に付いたこと。歴代の生徒会役員が、

自分たちの代で何かを成し遂げたいという熱い想いを持って活動してきた成果である。

② 活動の拡大により人との新たな出会いがあり、そこからまた新たな活動のきっかけになるヒントが得られたこと。多くの方々の支えがあって、私たちの活動は成り立っていることを感じた。

③ 全校生徒・先生方・地域社会が「三位一体」となって活動できるようになったこと。地域の皆さんの理解と協力を得ることが信頼関係づくりにつながっている。

④ 適切な情報を収集することの大切さ。顧問の先生方の適切なアドバイスのもと、国際社会の現状や変化に目を向けるようになった。

(2) 課題

① 人材不足。活動が拡大すればするほど人が足りなくなり、活動が大変になる。そのためますます人が集まらないという悪循環に陥ってしまう。

② 輸送費が高額になること。他団体からの助成金や全校生徒・先生方の募金協力等で工面しているが、活動規模が大きくなるほど資金面で苦しくなる。

3. おわりに

今回紹介した活動は、平成15年度以降の歴代生徒会役員が自ら考え、自ら実行してきた自主的活動の成果である。活動開始から6年が経つ

が、役員が代わり、顧問の先生が代わっても絶えることなく受け継がれてきた「平工生徒会精神（スピリッツ）」の強さを感じる。なぜ、ここまで継続することができたのか、その理由は3つある。

1つは、決して無理なことはせず、身近にあるものを利用し、「私たちにできること」を行ってきたからである。ジャージや運動靴、辞書、使用済みプリペイドカード・インクカートリッジ、アルミ缶、ペットボトルキャップなど、捨てればゴミだが、活かせば資源になり、人を助けることもできる。私たち高校生一人ひとりの力は小さくても、学校全体が一丸となれば、平工業高校一校でもこれだけのことができるのである。高校生の持つエネルギーをもっともっと

色々なことに役立てられればいいと思う。

2つめは、全校生徒や先生方、地域の皆さんの理解と協力があったからである。私たちの活動は困っている人たちに適切な支援をすることだが、実は私たちの方こそ多くの人々に助けられていることを、活動すればするほど感じさせられた。人と人とのつながり＝絆の大切さを知ることができた。

そして3つめの、「すべては喜んでくれる人々の笑顔のために」という熱い思いこそが最大の理由であり、私たちの活動の原点でもある。この気持ちを忘れることなく、これからも私たち平工業高校生徒会は、「私たちにできること」を地道に続けていきたい。

平成20年度年間計画（表）

月	学期	国際貢献事業Ⅲ	国際貢献事業Ⅳ	国際貢献事業Ⅴ
1	前年度	回収呼びかけ		
2		回収	物資回収依頼	
3		↓	物資回収作業 種類ごとに分別	
4	1学期	第2回発送	洗浄作業	回収第1回寄贈
5		↓	↓	第2回寄贈 に向けて回収 作業開始
6		↓	↓	↓
8	2学期	第3回発送	輸送費募金依頼 (全校生、先生方)	
9		↓	↓	
10		第4回発送に向けて回収作業開始	第3回マリ共和国への支援物資発送	
11		↓	↓	
12			第4回発送に向けて物資回収協力依頼	
1	3学期			
2				
3			物資回収作業種類ごとに分別	

工業教育資料 通巻第 324 号

(3月号) 定価 210 円 (本体 200 円)

2009 年 3 月 5 日 印刷

2009 年 3 月 10 日 発行

印刷所 株式会社インフォレスト

© 編修発行 実教出版株式会社

代表者 鳥根 正幸

〒102 東京都千代田区五番町 5 番地

-8377 電話 03-3238-7777

http://www.jikkyo.co.jp/